

北海道浮魚ニュース

平成 30 (2018) 年度 11 号

2018 年 7 月 20 日

道総研 釧路水産試験場

ホームページ : <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/shigen/ukiuo/index.html>

◎第 1 回太平洋スルメイカ長期漁況予報発表される

7 月 20 日、水産研究・教育機構より第 1 回太平洋スルメイカ長期漁況予報が発表されたので概要をお知らせします。今回は太平洋海域を対象とした漁期前半 (8~9 月) の予報です。

なお、この予報は国及び太平洋側道県の水産研究機関が参画し、北海道区水産研究所がとりまとめを行いました。予報文の全文は以下のサイトでご覧になれます。

水産研究・教育機構 (<http://www.fra.affrc.go.jp/>)

北海道区水産研究所 (<http://hnf.fra.affrc.go.jp/>)

「我が国周辺の水産資源の現状を知るために」 (<http://abchan.fra.go.jp/>)

今後の見通し (2018 年 8~9 月)

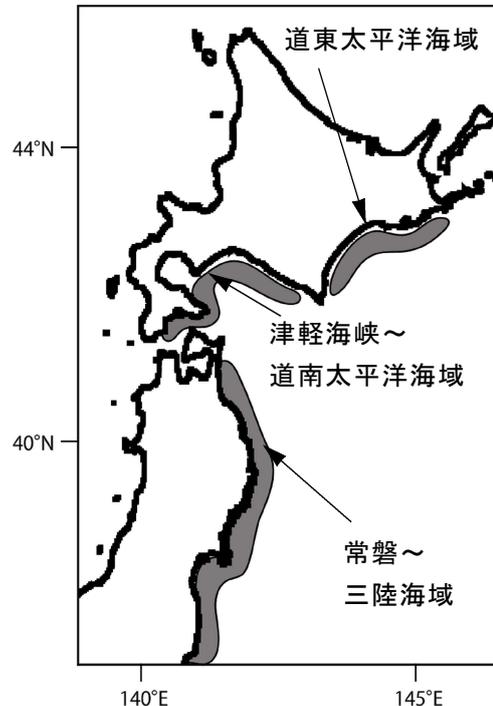
対象魚種 : スルメイカ

対象海域 : 太平洋 (常磐~三陸海域、津軽海峡~道南太平洋海域、道東太平洋海域)

対象漁業 : いか釣り、底びき網、定置網、まき網

対象魚群 : 冬季発生系群 (2018 年級群)

- ・道東太平洋 (いか釣り、底びき網) : 来遊量は不漁の前年並。来遊時期は前年よりも早い明確な主漁期はない。魚体サイズは予測不可。
- ・津軽海峡~道南太平洋海域 (いか釣り、定置網) : 来遊量は前年並。対象期間を通じて漁場が形成される。魚体は前年より大きい。
- ・常磐~三陸海域 (いか釣り、底びき網、定置網、まき網) : 来遊量は前年を下回る。対象期間を通じて漁場が形成される。魚体は前年並。



※文中の「前年」は2017年のことです。

・漁況は、5 月下旬~7 月上旬に実施した太平洋第 1 次漁場一斉調査 (釧路水試調査分は浮魚ニュース第 5 号参照) 及び道総研・函館水試による日本海スルメイカ北上期調査 (浮魚ニュース第 4 号参照) の結果と、各港の漁獲状況から予測されました。

・太平洋を北上して来遊する群れの来遊量は前年に続き低い水準と考えられます。一方、日本海から津軽海峡を通じて来遊する群れの来遊量は前年を上回ると予想されます。

・親潮からの道東沖への冷水の張り出しが前年より弱いことから、道東太平洋への来遊時期は前年より早くなると考えられます。魚体サイズはデータ不足のため予測できていません。

(釧路水産試験場調査研究部 TEL : 0154-23-6222、FAX : 0154-23-6225)